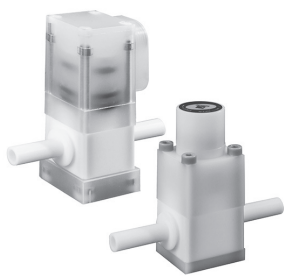


コフロック

シールレス流量制御バルブ、12月中旬よりサンプル受注開始

コフロック（京都府京田辺市、小島望社長）はシールレス構造でパテイクルが残留しない流量制御バルブを開発し、12月15日よりサンプル受注を開始している。

今回開発した流量制御バルブ『MODEL KAFV-100シリーズ』と『MODEL KMFV-100シリーズ』は流量制御するダイヤフラムとバルブボディを樹脂同士溶着した一体型となっている。シールレスとしたことで隙間に挟まるパテイクルなどが溜まらずクリーンな状態で使用することができる。



『MODEL KAFV-100シリーズ』(左)と『MODEL KMFV-100シリーズ』

洗浄用途で使われる流量制御バルブは耐薬液性のため高純度フッ素樹脂（New PFA、PTFE）を素材として使用しているが、同樹脂は加工成型が難しくパーツを分けてオーリングを挟ませたり、嵌め合い形状とすることでシールしてきた。薬液が流れる度にオーリング部分や嵌め合い部分に滞留していた僅かなパテイクルが溶出し、最終製造物の歩留りを低下させる原因にもなっていた。

同社取締役の新村英展氏は「溶着技術の難しさからこれまでシールレスのバルブは存在していなかった。シール部がなくなり構造自体もスリム化できたことで業界最小のバルブとして開発できた」とする。

まずは半導体分野をターゲットとし12月14日～16日に開催したセミコンジャパン2022に参考出展、同日からサンプルの受注を開始した。新村氏は「半導体分野はお客様によって仕様要求が異なる。今回出展した製品で完成というわけではなく展示会で頂いた意見を参考に量産仕様を固めてカタログ品として販売していきたい」とした。

発売は23年夏を予定。半導体その他、製薬、化学、研究分

野を中心に初年度4000台販売する意向だ。